

**『新中学校建設用地の適地選定について（中間案）』に係る
意見募集（パブリックコメント）実施結果**

1. 目的

角田市教育委員会（以下「市教育委員会」という。）では、『角田市学校の適正規模等に関する基本構想「第3次行動計画構想」』が示す学校の再編・統合案のうち、角田中学校と北角田中学校の再編・統合後の新中学校の適地選定について、令和7年7月に再設置した角田市学校適正規模検討委員会（以下「検討委員会」という。）における検討を踏まえ、中間案を取りまとめました。

今後、市教育委員会が新中学校建設用地の適地を選定するにあたり、中間案について市民のみなさまからの意見等の募集（パブリックコメント）を実施したものです。

2. 意見募集（パブリックコメント）実施結果

名 称	新中学校建設用地の適地選定について（中間案）
募集期間	令和7年11月19日（水）から令和7年12月18日（木）まで
募集方法	直接持参、郵送、FAX、電子メール、Webフォームへの入力
提出者数	5人（直接持参：1人 電子メール：1人 Webフォーム：3人）
提出件数	22件※

※ 提出件数につきましては、お一人で複数の意見をお寄せいただいた方もいらっしゃいましたので、提出者数よりも多くなっております。

※ No.について

1人から複数の意見をいただいたことから、枝番を付けて標記しております。

**新中学校建設用地の適地選定について（中間案）』に係る
意見募集（パブリックコメント）実施結果**

No.	項目等	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
1-1	総合評価	旧角田女子高等学校が、総合的に評価した結果、優れていることを考慮すれば、選定地として適格だと思う。	貴重なご意見として承ります。
1-2	用地取得	旧角田女子高等学校は県有地であり、今後交渉経過で取得が出来なかった場合は、どうなるのか。	当初より、新中学校の建設候補地の1つとして、旧角田女子高等学校が想定されており、宮城県教育委員会とは、随時、情報共有等を行っており、仮に旧角田女子高等学校が適地として正式に決定した場合には、その後の用地取得等の事務手続きが滞ることのないよう、十分な意思疎通を図っております。
1-3	その他	平成23年東日本大震災において、津波被害でお亡くなりになった方達の遺体安置所になった場所でもあるので、子供（生徒）達のケアをお願いしたい。	現在、角田女子高等学校跡地には、小体育館と柔剣道場が残されておりますが、新中学校は、それらを全て解体し、更地にしたうえで、新たな校舎・体育館等を建設する予定としております。子どもたちに無用な不安を抱かせることのないよう、新中学校には、安心して質の高い素晴らしい教育環境を整えてまいりたいと考えております。
1-4	その他	将来（10年先位）角田市は、小中校一貫として進めては、如何なものか。	将来、生徒数が減少し、学校規模が著しく縮小すると見込まれた場合、その時点で小中一貫校の導入も視野に入れながら、学校の適正規模について検討を進めてまいります。

No.	項目等	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
2-1	防災性	災害リスクと安全性の観点から 今回の中間案で示された旧角田女子高校跡地は、一級河川阿武隈川の近くに位置しており、浸水想定区域に隣接している。 中学校は災害時に「地域最大級の避難拠点」としての機能を担う施設であり、自然災害への安全性は最優先で考慮されるべきである。 その点、現在の角田中学校は高台に位置し、二次避難場所も確保されており、防災面での実績と信頼性が高い場所である。	防災性では、阿武隈川に近い旧角田女子高等学校より角田中学校の優位性が認められる評価結果となりましたが、国（国土交通省）では、令和元年東日本台風の教訓を踏まえ、阿武隈川の河道掘削や堤防整備を行っており、安全性が高まっております。また、これまでの状況を鑑みますと、8.5 水害や令和元年東日本台風において、角田市内の左岸堤防が決壊した記録はございません。 市教育委員会では、更なる子どもたちの安全・安心の確保に向け、①発災が予想される場合の休校対応、②緊急時に垂直避難しやすい建物構造の確保、③子ども達の生活空間である普通教室を2階以上に配置することなど、生徒・保護者・住民の皆様から安心してもらえる対策を必要に応じて講じてまいります。

No.	項目等	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
2-2	その他	教育施設の集約による「教育ゾーン」としての価値 角田中学校は、こども園・小学校・高校が隣接する、角田市の教育エリアの中心である。今後、児童生徒数が減少し小中一貫教育が求められる時代を迎える中で、幼小中高が一体的に連携できる環境は、兄弟姉妹が同じ通学路を利用でき、地域の見守り体制が強化されることで安全性や防犯面も向上するなど、教育的に大きな利点である。また、地域の伝統・文化・自然環境に囲まれた教育の場として、郷土愛を育むにも最適である。	旧角田女子高等学校は、角田小学校・角田高等学校からやや離れた場所にありますが、その中間には、市民センター、図書館・子ども図書館、郷土資料館等の社会教育施設、近隣には中島保育所が位置しており、連続した文教エリアとして捉えることができます。より広がりを持った文教エリアの中で、これまで以上に学校・社会教育施設等の連携を推進することはもとより、新たなまちづくりの可能性について市長部局とともに検討してまいります。 

No.	項目等	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
2-3	その他	通学の安全性と交通環境について 旧女子高跡地周辺は交通量が多く、大型トラックも頻繁に通行している。特に夕方は丸森方面の車両が集中し、スピードを出しやすい直線道路が続くことから、生徒の安全確保には大きな懸念がある。また、再度災害が起きた場合は、トラックなどの通行がより増えることが考えられる。比較表には、一番大切な交通安全に関する明記が無いため不安がある。一方、現在地は長年にわたって通学路が確立されており、地域の目が届く環境が維持されている。	登下校の安全確保に向けては、通学路整備のハード面に加え、地域・見守り隊・角田警察署・交通安全指導隊等と連携しながら、必要な対策を講じてまいります。

No.	項目等	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
2-4	経済性	財政的な課題について 確かに、現在地に新校舎を建設する場合は、在校生の学習環境を守るために仮設校舎・仮設体育館の設置が必要となり、短期的には費用が増加する。 一方、旧女子高跡地は「敷地の広さ」「自由なレイアウトが可能」といった利点があり、建設コストの面では有利に見える。 しかし、表の評価にもあるように、旧女子高跡地では県有地のため、用地取得が必要になり、道路拡幅工事が必要なためコストがかかる。また、以下のような懸念もある。 ・住宅地への騒音・日照への配慮 ・通学路や安全対策の新設 など、長期的には追加整備費が発生する。 また、学校が市の教育ゾーンから離れることによる教育的連携の損失は、金額では計れない大きなマイナスである。 したがって、短期的な建設コストだけでなく、将来の維持費・教育的効果・地域資産の活用を含めた総合的な「投資」として判断すべきである。	旧角田女子高等学校と角田中学校の経済性を比較検討するにあたっては、当然ながら、旧角田女子高跡地の用地取得費や道路拡幅工事費等も含めたトータルコストで判断しており、旧角田女子高等学校の方がコストを圧縮できると考えております。 その上で、ご懸念の騒音や日照権の問題については、かつて女子高等学校があった場所ということもありますので、レイアウトの工夫等により解決できるものと考えております。 また、現在の教育ゾーンから離れることで教育的連携の損失が発生するとのご指摘については、No.2-2の繰り返しとなりますが、より広がりを持った文教エリアの中で、これまで以上に学校・社会教育施設等の連携を推進することはもとより、新たなまちづくりの可能性について市長部局とともに検討してまいりますので、市教育委員会としては、むしろ教育的連携の新たな可能性が広がるものと捉えております。

No.	項目等	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
2-5	総合評価	地域と子どもの未来のために 学校統合は数十年に一度の大きな決定である。 単に「今安く建てられる場所」ではなく、「将来にわたり子ども達にとって最良の環境」を選ぶことが何よりも重要である。安全性・教育的連続性・地域との一体性・財政的持続可能性を総合的に考慮すると、現在の角田中学校の敷地に新しい統合校を建設することが、角田市全体にとって最も望ましい選択だと思う。	貴重なご意見として承ります。
2-6	その他	その他 東日本大震災時に遺体安置所のため不安を抱く生徒もいると思われる。	現在、角田女子高等学校跡地には、小体育館と柔剣道場が残されておりますが、新中学校は、それらを全て解体し、更地にしたうえで、新たな校舎・体育館等を建設する予定としております。子どもたちに無用な不安を抱かせることのないよう、新中学校には、安心して学べる質の高い教育環境を整えてまいりたいと考えております。

No.	項目等	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
3-1	総合評価	現角田中学校をそのまま残し、隣接する角田高校校庭を宮城県から譲り受け（現角田高校校庭は旧角田女子高へ移転をお願いする）、そこへ北角田中学校を移転させる案を再度検討委員会等でご検討いただきたい。 角田高校としても、現在狭い校庭で、野球部が練習中は、他の部活動ができにくい状況と伺っており、ご負担をおかけしますが、旧女子高の広い校庭へ移るメリットもあると思われる。 旧角田高校校庭が角田中学校へ移されることになれば、建設工事も大幅に短縮化される。また、角田市としても、防災拠点（近隣住民の避難時の駐車場等）を拡充できる。このためには、角田高校、宮城県と、角田高校と地元角田市との協力関係強化を図るためにも、今後一層の真摯な折衝が政治レベルでも必要と思われる。 実現できれば、懸案だった大雨洪水等の災害時における角田高校への避難所活用も今後一層円滑に進むと確信している。 角田市民にとって、長年の悲願であった角田の歴史的遺産である旧角田城への市民への	角田高等学校の校庭等は、部活動のみならず、授業や学校行事等にも使用しているため、宮城県から購入することは理解が得られないものと思料されます。 貴重なご意見として承ります。

No.	項目等	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
		土・日曜日等の部分開放への道筋がつけられることを心より願うものである。	
3-2	学校運営への影響	現角田中学校を移転することに伴う、生徒、保護者、住民へかける負担が非常に大きい（ので、そのまま使い続ける方が良い）。	角田中学校の校舎・体育館等を含む学校施設の老朽化や子ども達の教育環境の整備の必要性などを総合的に勘案し、令和6年度に中学校の再編・統合を決定しました。 建設場所をどこにするにしても、老朽化の著しい角田中学校の校舎・体育館等の建て替えは不可避であり、その間、生徒・保護者・住民の皆様にご負担をおかけすることになりますが、皆様からご理解とご協力をいただけるよう、丁寧な説明に努めてまいります。
3-3	防災性	候補地の旧角田女子高跡地は、阿武隈川に近く、災害時浸水の可能性が高く、防災上懸念があり、保護者の不安が大きいこと。	防災性では、阿武隈川に近い旧角田女子高等学校より角田中学校の優位性が認められる評価結果となりましたが、これまでの状況を鑑みると、8.5 水害や令和元年東日本台風において、角田市内の左岸堤防が決壊した記録はございません。また、国（国土交通省）も、令和元年東日本台風の教訓を踏まえ、阿武隈川の河道掘削や堤防整備を行っており、安全性は更に高まっております。 市教育委員会では、更なる子どもたちの安全・安心の確保に向け、①発災が予想される場合の休校対応、②緊急時に垂直避難しやすい建物構造の確保、③子ども達の生活空間である普通教室を2階以上に配置することなど、生徒・保護者・住民の皆様から安心してもらえる対策を必要に応じて講じてまいります。

No.	項目等	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
4-1	総合評価	私は、角田中学校と北角田中学校を再編・統合した際、旧角田女子高等学校の用地に新中学校を建設することに賛成である。	貴重なご意見として承ります。
4-2	敷地の現況	旧角田女子高等学校は敷地面積に関して申し分なく、生徒が活発に活動できるスペースを確保することができる。	旧角田女子高等学校については、校舎・校庭・体育館等などがほとんど制約無くレイアウト可能で、生徒の諸活動に支障なく活用できる十分な広さがあると認識しております。 また、現在の角田中学校や北角田中学校で不足している保護者用駐車場やスクールバスの転回所等についても、旧角田女子高等学校であれば、敷地内に確保することが十分可能となります。
4-3	その他	北角田中学校から来る生徒も Astemo(株)の道路を真っすぐ来ることができ、登校しやすい。	ご指摘のとおり、Astemo(株)前の道路（市道江尻梶賀線や国道 113 号）は、十分な幅員があり、歩道も整備されていることから、通学路として適当だと考えます。
4-4	学校運営への影響	角田中学校を改修するとなれば、仮設校舎で過ごす生徒が出てくる。中学校生活を有意義に過ごしてもらうためにも、工事等で不便な思いをさせることなく、立派な校舎で毎日勉学に励んでももらいたいと考える。	ご指摘のとおり、旧角田女子高等学校に新中学校を建設する場合、仮設校舎の設置は不要となるほか、工事中の体育館や校庭等の使用制限も発生しないため、生徒の学習環境を損なうことなく、新中学校へ移行することが可能となります。 また、引越しの回数についても、仮設校舎を設置しないで済むのであれば、既存校舎→仮設校舎→新校舎となるところを、既存校舎→新校舎の 1 回で済むため、生徒や教職員のかかる負担を最小限にすることができるものと考えております。

No.	項目等	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
5-1	総合評価	角田中学校と北角田中学校の合併にあたり、角田女子校跡地に新校舎を建設する計画について、以下の理由から強く賛成する。	貴重なご意見として承ります。
5-2	工事の施工性	両校の既存校舎はいずれも建設から年数が経過しており、耐震性や設備面で将来的な課題を抱えている。合併を機に新校舎を建設することは、単なる統合ではなく、これからの時代にふさわしい学習環境を整備する絶好の機会である。最新の教育ニーズに対応した教室配置や ICT 環境、バリアフリー設計などを取り入れることで、生徒一人ひとりの学びをより充実させることができる。	ご指摘のとおり、新校舎等の建設にあたっては、これからの時代にふさわしい学習環境を整備する好機と捉えており、主体的・対話的で深い学びを実現するための多目的スペース、校舎・体育館等の空調設備、豊かな心と健やかな体を育むために明るく温もりあるデザイン、バリアフリー化・ユニバーサルデザインを採用した施設や最新の ICT 環境などを整備することとしております。
5-3	工事の施工性	角田女子校跡地は、十分な敷地面積を有し、通学面や安全面においても優れた立地条件を備えている。新たな用地取得を必要とせず、地域にとって長年教育の場であった土地を引き続き教育目的で活用することは、合理的かつ象徴的な選択であると言える。	旧角田女子高等学校については、校舎・校庭・体育館等などがほとんど制約無くレイアウト可能で、生徒の諸活動に支障なく活用できる十分な広さがあると認識しておりますが、市有地ではなく、県有地のため、用地取得が必要となります。

No.	項目等	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
5-4	学校運営への影響	どちらか一方の既存校舎を使用する場合、「片方の学校に通う」という意識が残り、心理的な不公平感が生じる可能性があります。新校舎を建設することで、すべての生徒が同じスタートラインに立ち、新しい学校としての一体感や帰属意識を育むことができます。	貴重なご意見として承ります。
5-5	工事の施工性	新校舎は、将来の生徒数の変動や教育内容の変化にも柔軟に対応できる設計が可能です。長期的な視点で見れば、維持管理コストの削減や、安全性の向上にもつながり、結果として地域全体の負担軽減にも寄与すると考えます。 教育環境の充実、地域の魅力を高め、若い世代が安心して暮らせるまちづくりの基盤となります。角田女子校跡地に新たな中学校を整備することは、地域の歴史を継承しつつ、未来への投資として大きな意義を持ちます。 以上の理由から、角田中学校と北角田中学校の合併に際し、角田女子校跡地に新校舎を建設する計画は、生徒・保護者・地域にとって最も望ましい選択であると考えます。	新校舎等の建設にあたっては、多様な活動に応じて自由に姿を変えられる可変性のある教室や多目的スペースの設置などを検討し、将来の生徒数や時代とともに変化する教育ニーズにも十分対応できる設計としたいと考えております。 貴重なご意見として承ります。